

平成30年度普及指導活動外部評価委員会（開催日：平成31年1月29日）

「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課

課題名	評価項目			次年度の普及活動の改善	
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果		その他
地域特性を活かした畜産基盤の強化～小規模産地での畜産振興と若手普及員の普及方法について～ (松江農業普及部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農業全体で農家戸数、担い手の減少の現在、必要性のある活動だと思ふ。 ◆飼養農家が減少する中、新規就農者が育っていることは大いに評価できる。 ◆経験不足という課題を、自ら現場に出ることで技術・信頼関係の構築を進めている ◆肉用牛農家戸数・飼育頭数の減少傾向に歯止めをかけるという大きな課題を解決していくために、特色ある経営体に学ぶ活動と、農家ごとの状況を把握する活動を実践することで、現場で求められている支援策をまとめ、農林水産業振興計画に活かしていく、という流れは筋が通っていてよく理解できる。 ◆小規模・高齢化産地の特性と、若手普及員のコミュニケーションの課題を的確に捉えた計画・目標であると高く評価できる。 ◆「農家の役に立ちたい」を活動の原点にしており、地域の現状を上向きに変えようとする意欲が伝わった。 ◆子牛成績カルテにより、農家が客観的に自らの成績を捉えられるように可視化した点が素晴らしい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農家によって飼育、管理が異なり、個々の問題点を把握し、それに対するの対応を検討してもらいたい。 ◆発表内容として、先輩普及員からの引継ぎや指導面が見えると更に 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全農家巡回は特に評価できる。 ◆一見簡単そうなのが大切。 ◆その結果農家の方に受け入れられやすくなる。 ◆全農家の子牛成績カルテを分かりやすく図示しコメントまで加える点は素晴らしい。 ◆市場後の体側結果を農家ごとに分析は、導入や保留する牛に対しても効果があると思う。 ◆関係機関が連携した巡回は、それぞれの立場で指導してもらえ、身近で話すことによって、農家も気安く相談することができる ◆関係機関と同一目線で巡回を行う体制を、引き続きお願いしたい。 ◆また、その中でも役割分担として個々の飼養カルテによる経営向上対策を普及部として取り組みを行って頂くことは、農家の経営改善と「気づき」の点で効果が大きいと感じた。 ◆従来の活動に加え、新たな活動として、全農家へ子牛成績カルテを返却していること。得意のパソコンを駆使して、分かりやすく図示するとともにコメントを加えるという工夫が、丁寧な支援を実感してもらえ、農家との信頼関係が結びやすくなる。 ◆生産者、関係機関とのコミュニケーションと連携が密で、フィードバックも適切に行われていると高く評価できる。 ◆従来の活動と自身の意思による新たな活動を区分していることで内容や成果がわかりやすい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子牛市場データの返却、繁殖カードの利用など成果がでている。 ◆農家がデータを見せ合い意見交換するなど自身の課題を認識し意識が向上していくのが感じられた。 ◆市場における1頭ごとの分析や、繁殖カードを農家自身がチェックし活用するのは、牛の状態をより把握することができる ◆生産者へのフィールドバック、改善点の提案により、既存産地としての生産向上目標に寄与しており、生産者の意識改革につながっている。 ◆子牛成績カルテの返却を通じて、農家同士がデータを見せ合って意見交換する場面もあり、農家が自らの子牛の商品価値を高める工夫を考えるきっかけを作った点。農家に若手の取り組みに関心を持ってもらえ、また期待もされている様子がわかる。 ◆肉用牛生産の見える化を図り情報を共有することで、関係機関の連携を深める流れを生み出している点。 ◆普及員と生産者の双方に、良い意識の変化がみられる点で高く評価できる。 ◆活動によって農家や関係機関の取り組み強化がうかがわれる。 ◆それにより、現場における、どうしても後回しになりがちな情報の見える化によるデータ共有など、小さな現場改善が目に見える形で進んでいることが大きな成果だと感じた。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆発表内容を聞いているだけで、普及員と農家の情景が思い浮かぶ発表だった。 ◆関係機関の連携やデータを伴った情報交換会の開催 ◆将来にむけた良い2年目となっていると思う。 ◆臆せず、現場に出ている点。知識や経験は少なくとも関わりを持つことで、信頼関係や広がりを作っていこうという姿勢に今後が期待できる。 ◆緊密なコミュニケーションを基盤としたOJT、Off-JTが適切に行われていると高く評価できる。 ◆自身の考察が的確で今後の活動にも活かしてくる。 ◆今自分にできることを考え、普及対象との関係性を築くために現場に飛び込む勇気と行動力が素晴らしい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆初心を忘れず、今後とも島根の農業のためにも頑張ってもらいたい。 ◆新規就農者がこれからも増え、やる気のある若手を育ててもらいたい 	<p>○農家巡回の継続で個々の課題を把握し、共通する課題については、関係機関と連携して、管内で特に成績が良い農家の飼養方法を学ぶ研修会の開催を検討したい。</p> <p>○数値目標については、繁殖カードを導入した農家の初回授精日数の短縮を目標としたい。更に繁殖成績向上に必要な情報を記録し、関係機関が共有することで、迅速な指導ができる体制づくりにつなげる。</p> <p>○カルテについては、提供したデータの見本を普及情報で発信している。また、H30年度分は1頭毎の分析結果を確認できるよう、カルテをバージョンアップして提供する。 (ひな形のエクセルを提供すること</p>

	<p>自分としての課題を見つけた取り組みの点が共感し易かった</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全農家対象の活動だけでは波及効果は限定される。関係機関と連携した重点指導で成功事例をアピールすることも必要。 ◆他エリアにもカルテのひな形をシェアし、県下全域で成績の俯瞰ができることより全体の品質向上につながるのではないかと感じた。 ◆数値目標を掲げての活動計画が次の具体的な一歩のマイルストーンになる。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農家の気持ちになり、グラフ化するなど分かりやすい活動計画は、評価できる。 ◆小規模産地ならではの、気安く聞くことのできる利点がある ◆品目・規模を基にした重点普及対象を、産地全体の農家を対象とした点は、現場としては有り難い選択と考える。但し、県の普及事業の農家を絞った活動とは相違しているので、産地が縮小している地域・新たに取り組む地域においては、ぜひとも生産者全体の対応を今回の例のようにお願いしたい。 ◆プロの農家に対し、経験の少ない若手の立場ながら、できることで積極的にかわりを深めていこうという意欲が感じられ頼もしく思う。 ◆継続、拡充を大いに期待する。 ◆農家が求めるものを形にして返すことを意識した活動で好感が持てる。 ◆農家を取り巻く支援機関の連携が今後さらに深まることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「知識や経験がなくてもできることはある」という普及員の積極的な姿勢に感銘を受けた。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年々高齢化が進み、体力も衰え、それに見合ったヘルパー制度は急務になっている ◆放牧も、省力化と言いつつも、牛の運搬や脱走も問題点としてあり、その対処法も考慮してもらいたい ◆地域内での新たな飼養者の推進等が今後期待される点と思う。 ◆園芸・畜産においては「すそ野」を広げることが産地の力となるので、引き続き関係機関と一体となった振興策の立案・実行をお願いする。 ◆関係機関の若手職員による勉強会の意義はあると思うが、全体の組織体制の中で特別な役割があるのか疑問。 ◆奥出雲の生産者からのアドバイスなどを基に、より生産者が負担なく且つ即現場に反映できるタイミングでの巡回が仕組み化できるというなと思った。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆まずは現場にでること、全戸巡回の継続と基本的なことがしっかりとできていた。 ◆年々、農家交流が薄れてきているので、話し合いの場がたくさん盛り込まれているのは、孤立を防ぎ、維持にも効果が現れる 	<p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後は収益向上につながる活動を期待している。 ◆このまま継続してもらいたい ◆数値目標を設定するなど客観的な指標を使うことも必要。 ◆巡回の後の支援チームによる現状分析とそのフィードバックそして支援者間の情報共有の仕組み化に向けた関係機関それぞれのTASK 明確化がなされると更に有機的な支援体制になると思う。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆普及活動後、農家自身が活用できる工夫があり、今後普及効果が期待される。 ◆若い普及員だからこそその目線で、積極的な取り組みが見られる ◆前項目で記載したように、一個人の取り組みを、普及事業として役割として県域取組へつなげて頂きたい。 ◆他地域・他分野への波及を大いに期待したい。 ◆成果が制度やしきみづくりに結びつくことを期待する。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆採用2年目の若手普及員だからこそ、農家に受け入れられ、成功したと感じた。 ◆農業に限らず「人と人のつながり」が大切だと感じる発表であった。 ◆こうした様々な取り組みを、県下に広げてもらいたい ◆若手普及員の発想を尊重する職場（ベテラン普及員）あつての成果と想像する。 ◆メインテーマに「畜産基盤の強化」とあるが、発表内容からするとズレがあるのでは。 	<p>は可能です。データを入れ替えれば、他管内でも使用可能。）</p> <p>○産地の維持・拡大に向け、引き続き関係機関と一体となった振興策の立案・実行をめざしていく。</p>
--	---	---	--	--	--

	<p>◆関係機関との役割分担は情報共有の手段についてさらに詳しく聞いてみたかった。</p>	<p>◆2年目だから課題を持っていることと、2年目だから出来ることとがあり、しっかり実行することで課題に向き合っておられ、後輩への継承や良い事例の広域取組をお願いしたい。</p> <p>◆農家と話す機会を作っていこうという姿勢は、現実的で有効な支援策を見つけることにつながり、真摯な普及活動ぶりがうかがえる。</p> <p>◆自身の役割を意識して巡回活動に取り組む姿勢が良い。</p> <p>◆奥出雲の生産者からのアドバイスなどを基に、より生産者が負担なく且つ即現場に反映できるタイミングで関係機関と一緒に巡回する仕組みができるといいなと思った。</p>			
--	---	---	--	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
<p>”本気で、いちごやろう。”～「なかうみプロジェクト」が取り組む集落ぐるみの就農支援と普及活動～ (松江普及部安来支所)</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆島根県で一番の産地での農業者の高齢化、担い手不足、新規就農者の確保については必要性のある活動だと思う。 ◆農業士からの意見で「農業集落ビジョン」が作成されたことは凄い ◆生産者だけでなく地域の課題と連動させた取り組みが品目の振興面で行われており、新たな視点と感じた。 ◆JA、下坂田町ともにいちごの新規就農者に対しての情報の一元化ができていない状況を踏まえ、JAと下坂田町がある安来市が連携して課題を整理し、将来像を明確にして共有することは、活動の幅が広がり、新規就農者の確保につながりやすいと期待できる。 ◆生産者自らが取り組みに関わることで、よりきめ細かいサポートがイメージできる。 ◆生産者と住民の皆様の「本気」をもとに、短期と中長期のスパンで体系的な計画がなされており、高く評価できる。 ◆水田営農で一般的な集落ビジョンを作成して産地や担い手を育成する手法をイチゴ生産で実践したことは先駆的。 ◆町内会を巻き込むことで、集落全体のバックアップ体制が整い、迅速かつ実際に機動する就農基盤が整備されたことが素晴らしいと感じた。それにより、新規就農者のやる気を逃さないタイムリーな支援につながると思う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆町内の有力生産者を中心としての取組点は効果的だと感じた。 ◆生産者はもちろん、地元の人たちを巻き込んだ話し合いは、誰もが本気になり、積極的に動き出す ◆研修・仕事・就農環境・住宅環境を含めた取り組みとなっており、毎年の研修生・就農者につながっている。 ◆農業集落ビジョン作成のための検討委員会が、下坂田町の指導農業士、UIターンの認定新規就農者・農業研修生、町内会員、安来市、JA、安来支所と多方面にわたる関係者で構成されていたことで、より現実的な検討がなされたと想像できる。 ◆就農相談会に生産者自らが参加し、農業体験を行うツアーを集落自らができるようにフォローしたのは、就農希望者にとっても、現場の生の声を聴くチャンスとなり、安心材料を得る機会となると思う。 ◆生産者、JA(部会)、住民、市、県(行政、普及部)が一丸となった組織的・体系的な活動が実現しており、普及部も、強みを生かした支援を展開しており、高く評価できる。 ◆農業者を主体にしたプロジェクト組織を立ち上げて集中支援する手法は効果的。 ◆主体はあくまで生産者であり、自主的にプロジェクトが進んでいくような、意見の引き出しや集約など普及部のできることをしっかりと認識したうえで支援されている点が素晴らしいと感じた。ファシリテーショ 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者、希望者の増加に繋がりが、近隣地域にも波及効果が期待されそうである。 ◆自分たちの積極的なやる気を、最新の動画やポスターを作成して新規就農者を呼び込む活動は、大いに評価したい ◆地域・担い手リーダーを核とした取り組みの中で、県普及部の役割を共有化しビジョン作成まで取り組んでいる。 ◆「今」から「5年後・10年後」の地域を考える取り組みとなっていることと、地域と生産者が主役で取り組みを行なっている点が、既に意識の変化から自然発生的に始まった事例と感じた。 ◆新規就農者が安心して来られるように、「農地と住宅の一体的な確保」の取り組みが進んだことの意味は大きいと思う。 ◆「なかうみプロジェクト」のキャッチコピーが、「本気で、いちごやろう。」という勇ましい感じなのとPRの方も幅広いので、注目を浴びやすく、また記憶に残りやすいと感じた。 ◆産地と地域に顕著な成果が得られている(かつ、得られつつある)ことは明々白白であり、高く評価できる。 ◆UIターン就農者の増加など成果は明確で重要課題解決の優良事例。 ◆生産者との信頼関係がしっかりと築かれていると感じた。とかく、縁の下の力持ち的な存在になりがちな実動部隊が、センスの良いプロモーション 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農希望者の募集を積極的に行う準備もでき今後を期待する。 ◆市が全体で一本化連携して動いている ◆どこでも取り組める内容ではないことから、大きな財産になっていると思う。 ◆主体を生産者におき、普及活動は得意分野でバックアップする、関係機関に地域(集落)が入ることでネットワークが軽くなる、というポイントを上手く活かした活動だと思う。 ◆生産者や住民の「本気」に直にふれるだけでも、きわめて高い資質向上効果が期待できると考える。 ◆農家や地域が求めることを実現させる現場密着の活動である。 ◆プレゼンの資料も分かりやすくセンスがいいなあと思った。 ◆生産者の思いを引き出すヒアリングスキルと具現化するチカラが素晴らしい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆発表内容が少し分かりにくい。 	<p>○本PJメンバーや新しく就農された若い農業者の発想により、安来いちごは転換期を迎えている。今後も新規就農者は増加するので、関係者で調整を図りながら支援していきたい。</p> <p>○具体的な数値目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数 ・新規栽培者の平均収量 ・JA販売額は数値目標を設定している。 <p>○具体的な活動目標については、現在積極的に取り組みが進められている活動は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハエによる交配 ・パッキングの受託システム ・新品種育成 <p>○他の品目の産地化への検討波及は下坂田町におけるブドウの在り方を検討している。具体的には</p>

	<p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各分野の具体的な数字目標が必要。 ◆遊休農地は、どこもが抱える大きな問題で、その有効策の先進地になってもらいたい ◆同じような課題が各地区で発生しているの、やすぎの取り組みを県内の行政・関係機関へ繋ぎ、波及効果が出る様に更なる取り組みをお願いしたい。 ◆成果目標の設定はなかなか難しいと思うが、それにより進捗状況を俯瞰してみることができるはず。 ◆ビジョンと共に数値目標も設定されると関係者が現状把握をしやすと思う。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆検討会の発足と集落ビジョン作成のサポート以外に、規模拡大、収益に関するデータ目標もあれば良いと感じた。 ◆もともとがイチゴというのは、新規の人でも入りやすいと思う ◆継続、拡充を大いに期待する。 ◆ビジョンの検討から作成、実践支援と普及が主導して計画的に活動を進めている。 	<p>ン能力が長けた普及員の存在が大きいと思う。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各分野の具体的な活動目標が必要。 ◆移住した人たちの住むところは一番必要だが、空き家が増えているといっても、なかなか利用という面では問題もあるのでは ◆相対的には面積が減収気味となっており、リースハウス制度の引き続きの取り組み等による産地再整備化の取り組みをお願いしたい。 ◆何より、地域を巻き込んだ点が素晴らしく、他エリアにおいてもその手法が多いに参考になると思うので関係機関はもとより、普及部間でもそのプロセスの共有がなされるといいなと思った。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産者から行政機関、JA が一体となり検討会を発足し集落ビジョンを作成し思いを一つにする活動は必ず将来につながると思う。 ◆農業者以外の地元の人たちの意見を取り入れ、一緒に話し合いを進めていくのは、他地域でも参考になると思う ◆安来地区は、各地域の特性に合った振興を行っておられ、いちごから他の品目の産地化への検討波及をお願いする。 ◆技術や農地、住宅などの「就農パッケージ」の提供など関係機関との密接な連携ぶりがわかる。 	<p>ヨンにより主役になっていることに感動した。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各分野の具体的な数字での成果が必要。 ◆イチゴ以外の多品目への取り組みは、人手不足(後継者不足)もあり、全てがスムーズにはいかなくても、成功して欲しい ◆いち個人の普及活動ではなく、10年後、100年後の島根農業をどうするか視点での、県普及事業の取り組みを期待している。 ◆若手の普及対象の生の声がもう少し聴いてみたいと思った。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一部の地域ではなく安来市全体での課題でもあるので、今後、近隣の地域にもさらに波及効果がでるよう期待する。 ◆隣接する町にも、実績を伴った波及効果が現れていることは凄い ◆他地域・他分野への波及をおおいに期待する。 ◆産地全体への波及効果が見込まれ、今後の活動に期待。 ◆なかうみ PJT の発足時点でかなり先を見据えているのがすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地を引っ張っているリーダーがしっかりしておられ、また後に続く人も育成してもらいたい ◆県普及部として、地区を超えた園芸産地づくりへやすぎの事例を波及して取り組みをお願いしたい。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後「思いを形に」し日本を代表するいちご産地にしてほしい。 ◆安来はイチゴのイメージが定着してきている ◆農業者や他機関から信頼される普及活動の手法。 	<p>以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休見込ハウス調査 ・ブドウ+X(イチゴ、白ネギなど)の経営モデルの検討 <p>○県としては、安来での活用事例を共有し、他地域における就農支援を進めていく</p>
--	---	--	---	---	---

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
出雲地域における GAP 推進～産地育成と担い手育成を目指して～ (出雲普及部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後、GAP、GLOBALGAP 認証は必要であり、さらに認証拡大を図ることも必要。 ◆安心・安全がより求められるようになり、これからはますます取り組むことが必要になってくる ◆出雲地区の農業における GAP(美味しまね認証)の①取り組み目的と②普及部の役割を明確化することで、産地としての取り組みにつながっている。 ◆GAP・美味しまね認証の取り組みを通じて、県産農産物の安全性向上と農業経営の改善、技術者養成につながる学校教育の充実を図ろうとした点。 ◆GAP への対応は緊急の課題であり、なおかつ普及部に最も求められるニーズの一つと考えます。的確かつ丁寧に計画がなされており、高く評価できる。 ◆高度な GAP 取得を通じて産地や組織の生産意欲を引き出す手法で説得力がある。 ◆社会情勢に応じて、生産者に期待される取り組みへの挑戦をしてみよう、と思わせる意欲の引き出し方が上手なんだと感じた。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆書類作成が大変で、なかなか安易に記入できない ◆部会全体での取り組みと、限られた人数での取り組みとあり、全体で出来ない状況(課題)が見えなかった。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆認証取得者への視察、勉強会は非常に効果的だと思う。 ◆GAP 推進体制も確立されており関係機関との連携ができています。 ◆青年部や女性部、女子会での勉強会を開催し、記入しやすいように工夫され、「産地活性化プラン」の中にも GAP 推進を位置付けていることは、誰もが必ず取り組む必要があること ◆GAP 取得の指導員に限られる中で、県として積極的に取り組みをされている。 ◆出雲農林高校での取り組みが興味深い。生徒自らが考え、作成して実践する過程は自信につながり、やりがいを生み出していくことが期待できる。 ◆JA しまね出雲地区本部各支部に GAP 推進リーダーを配置し、JGAP 指導員の資格を取得することで、推進協議会の立ち上げにつながって普及推進を図った点。 ◆高校、JA(部会)との緊密な連携がなされており、高く評価できる。 ◆先行事例を効果的に活用し、団体取得や上位認証取得などステップアップにつなげた活動。 ◆2020 オリパラに向けて、世の中で食の安全に注目されることが増えるなか、アンテナを張っている生産者さんが、具体的にどう動いたらいいのか、の事例が多く輩出されているなどと思った。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆GAP 認証により産地力の向上に繋がっている。 ◆取り付きがなかなか前向きに行かなくても、皆でやることで意見を言い合い、理解し、自信がついていること ◆年次別に、着実に取り組みが拡大している。生産者と一体的に進めている ◆出雲地区の生産者組織での取り組み予定が立っており、地域としての取り組みを先導している ◆認証の取得という目的に向かって工夫を重ねている。 ◆PDCA サイクルがしっかり回っており、意識の変化も明確であり、高く評価できる。 ◆GAP を分類し、難易度に応じた指導によって成果を出している。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後は、消費者に対しての PR も必要。 ◆たぶん、なかなか理解できない人もおられると思うが、根気よく指導してもらいたい ◆組織員全体での取り組みをどう進めていくか、理解醸成をどう進めていくかが共通の課題と思う ◆取得が経営改善や産地強化にどうつながったかの視点も必要。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後、島根県全体で連携ができ、効率的に認証取得できるネットワ 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆認証取得を通じてマイナス思考からプラスへと変化していくのを感じた。 ◆GAP 認証が取引先からの要請に応じた取り組みで、それに対応した指導体制 ◆営農指導員・農業普及員に求められているのが、技術指導一本から経営指導・栽培環境改善等に拡大してきており、今後は更に必要な業務となると思う。 ◆農家自身が PDCA サイクルを廻していけるような仕組みづくりの支援を行い、認証取得が目的にならないようにしたいという言葉がよかった。 ◆高校、JA(部会)との緊密なコミュニケーションを基盤とした「学び合い」が適切に行われていると高く評価できる。 ◆現場密着への指導で活動の質が高い。 ◆農林高校におけるグローバルギャップの取得は、学校の指導方針があるなかで、双方の思惑のすり合わせや生徒の習熟度に合わせたアドバイスなど、通常業務の範疇を超えた挑戦に感動した。 	<p>○部会全体での認証取得事例もあるが、ぶどう部会については、部会員が 353 名おり、部会員全員の合意形成には時間を要することから、青年部4名の認証を先行させた。今回の認証取得をきっかけに、他部会員への波及に繋がりたい。</p> <p>○農林高校での GLOBALGAP の取り組みについて、他県では認証取得した高校の生徒が地域の生産者に指導を行っている事例もある。今後、出雲で GLOBALGAP 認証の取得を目指す生産者もいるため出雲農林高校でも指導ができるように支援していく。</p> <p>○消費者に対しての PR について、JA 出雲地区本部では取引先への PR や、ラピタでの美味しまね認</p>

	<p>◆先駆的な取り組みにより、かなりのノウハウが集積されたはず。これを個人や当普及部でとどまらせることなく、支援機関が使える支援マニュアルなどが作成され、県全体としての GAP 認証の支援レベルが更に向上することを期待する。</p> <p>【自由意見】</p> <p>◆このような認証取得は何かのきっかけが無ければできないが、今の時代あたり前にもなっているので、さらに普及していくべき。</p> <p>◆作成指導が必須</p> <p>◆消費者の農産物に対する安全・安心の欲求が高まっているのは日々実感しているが、そのお墨付きとなる認証の中身が素人には分かりづらい。GAP・美味しまね認証、さらにはグローバル GAP となるとその違いが区別できず、沢山の認証を受けたものが信頼できる、と単純化しそうである。</p> <p>◆そういう消費者の感覚と、農業従事者の認証を得るための苦労が釣り合っているのか、という疑問を抱えたままだったので、私と専門家の方々とは視点がズレているかと思う。</p> <p>◆継続、拡充を大いに期待する。</p> <p>◆JA や生産部会、学校に働きかけ、連携体制を固めるなどの確な戦略で成果発現につなげた。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>◆学生は特に飲み込みが早いので、そうした人たちに、ゆくゆくは指導する立場に育てて欲しい</p> <p>◆広域的な取得支援体制を県としてお願いしたい</p> <p>【自由意見】</p> <p>◆GAP 認証は、自分の為にもなる認証。今後、県としても部門毎に見本等を作成し分かりやすく PR し推進してほしい。</p> <p>◆なかなか理解するまでが大変</p> <p>◆濃密な連携体制づくりを普及が先導したことがわかる取り組み。</p>	<p>一クができるよう更に普及してほしい。</p> <p>◆ものづくりもだんだん難しいことに挑戦する必要があるのだな、と痛感</p> <p>◆他地域への波及を大いに期待する。</p> <p>◆高い波及効果が見込まれる。</p> <p>◆取得の次は、現場にそれが根付くための実地指導が必須となると思われる。</p> <p>◆今後も、他エリアの模範となるべく先駆的な支援事例として実践支援の取り組みを期待する。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>◆農家自身がサイクルを回していくのは、並々ならぬ支援が必要と思う</p> <p>◆全ての生産者が取り組めるための方法を提案頂きたい。</p> <p>【自由意見】</p> <p>◆私自身、認証制度と聞くだけで難しく考えてしまう。今回の発表のように分かりやすく工夫、見本の作成など非常に効果的だと思った。</p> <p>◆島根県のホームページ上の簡単な入力、選択で作成できないのか。</p> <p>◆農林高校での書類作成指導は、効果が現れてくると思う</p> <p>◆担い手育成・担い手の労働力対策の先進事例がすぎ地区にあるので、もっと情報発信を県・市・JA から行ってほしい。</p>	<p>証フェアを開催し PR に努めており、継続した PR 活動を支援する。</p> <p>○農家自身で PDCA サイクルを回していくため、日頃の啓発と、内部監査を課して指導する。また、将来的にはグループの中で GAP 指導員を育成していく。</p> <p>○全ての生産者が取り組むためには、まずは生産者の意識改革が必須であり、様々な機会を通じて説明していく。また、研修を開催し、GAP の必要性を丁寧に説明し、生産者自身の意欲を醸成するとともに、記入しやすい様式の工夫や事務局との役割分担をしていく。</p> <p>○支援マニュアル等の作成については今後農産園芸課と協議を行って行く。</p>
--	---	---	---	---	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
「島の香り 隠岐藻塩米」の産地強化 ～ GAP と「きぬむすめ」の推進 ～ (隠岐支庁農林局)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆米穀市場では、少しでも安く品質の良い米の需要が高い今の時代には、適切な目標だと思う。 ◆隠岐ならではの、他に真似のできない米づくり ◆離島での出来る取り組みはそう多くない中で、関係機関で課題と状況を共有し、取り組みを行なっている。 ◆特色ある米作りとしてスタートした隠岐藻塩米であるが、取り組みが停滞気味であることに強化を図るため、従来の品種に加えきぬむすめを新たに加えたり、美味しまね認証の取得拡大を狙ったりした点。 ◆産地の動向と消費地のニーズを的確に捉えた計画がなされており、高く評価できる。 ◆産地が抱える危機感を先取りし、生産者グループの主体性を引き出した活動。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆隠岐の「コシヒカリ」と「きぬむすめ」収量比較だけではなく、生産原価、食味値、市場価格の比較も必要。 ◆従来の「コシヒカリ」から、新たな品種「きぬむすめ」を加えることは、栽培管理も違ってくるので、指導も大変だったのでは ◆認証取得が産地の強化にどう結び付いたかの視点を加えること。 ◆地域課題の吸い上げなのか。生産者の生の声がわかりづらかった。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆GAP 導入の推進について、認証取得者との現地研修会により農業者同士の関係も築かれたのは良いと思った。 ◆「きぬむすめ」については、詳細に分析されており、効果的である。 ◆「美味しまね認証」取得に併せ GAP 導入の推進は、より藻塩米に付加価値を付け、有利販売できる ◆栽培方法だけでなく、商品性の向上・販売環境向上につながるGAP (美味しまね認証)の導入取り組みを進めている。 ◆需要を見た栽培品種の追加等、アンケートに基づく抜本的な見直しも連携して取り組みを行なっている ◆美味しまね認証の取得拡大・きぬむすめの普及拡大の二本柱に沿って、段取りよく課題解決の道筋をつけている点。 ◆技術と経済(栽培指導と市場調査)の両面からの綿密なサポート体制を構築しており、高く評価できる。 ◆認証取得でステップを踏んだ計画的な指導ができています。 ◆農技センターなど関係機関やアドバイザー？との連携についてはよく分かった。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「きぬむすめ」の推進だけではなく「隠岐のスマート農業」など収益性を考える農業を今後は推進していく必要もある。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆認証取得者の増加、「きぬむすめ」の面積拡大、収量向上に向けた実証など、成果が数字にでている。 ◆「美味しまね認証」や GAP 認証に積極的に取得する人が増えていることは、それだけ生産者の意識が高まってきているので、大いに指導体制が評価される ◆美味しまね認証の取得者が年々増加している。地域での協議がなされている。 ◆きぬむすめの栽培面積が拡大しつつあり、販売を起点とした生産の実践が行われている ◆美味しまね認証の取得者拡大、きぬむすめの面積拡大とも成果を上げた点。 ◆きぬむすめの収量向上に向けた実証を行い、課題を抽出できた点。 ◆着実な成果とともに今後の課題も抽出できており、高く評価できる。 ◆実証結果や新たな課題などを部会員である生産者と共有していること。 ◆課題の整理が明確だった。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆収益性の部分を詳細に。 ◆島ならではの取り組みで、生産拡大にも限界があるかも知れないが、後に続く人たちが継続して取り組んでいける基盤を作っておいてもらいたい ◆きぬむすめの収量は、生産者の収益に直結するので、肥料成分表の 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆隠岐藻塩米への情熱を感じられる発表であった。 ◆今後とも、一番ではなく一流の米作りを目指し普及してほしいと思う。 ◆島根大学との共同研究は、成分や食味にも、数字による太鼓判が押され、栽培意欲が高まる ◆生産者・関係機関と連携し、現場と直結した取り組みであり、引き続き対応をお願いしたい。 ◆発表の中の、農家がコンヒカリから脱却できないという話が印象に残った。培ってきた経験が財産の農家の方々に、認証制度の理解を深め科学的な実証によって納得してもらっている様子がよくわかった。 ◆緊密なコミュニケーションを基盤とした OJT、Off-JT が適切に行われていると高く評価できる。 ◆問題意識をもった活動ができています。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後は、地域を守る農業+収益性の高い農業が特に必要になると思う。 	<p>○実需者から、消費者嗜好(食味、食感等)の変化を理由に、「きぬむすめ」の生産拡大を求られているが、現状の単収レベルでは、生産者に収益性が高い等のメリットが十分伝わっていない状況。施肥改善による安定多収技術確立を目指すとともに、栽培環境の改善(再ほ場整備、スマート農業導入)等による省力化、低コスト化の検討もを行い、品種転換・面積拡大を図る。</p> <p>○実需者から、安心安全の取組として、消費者には「美味しまね認証」が理解され易いとの評価を得ている。また、生産者の経営管理面等での意識改善の効果も確認できていることから、認定拡大に向けた支援を継続</p>

◆実需者との関係性が築けているのか疑問が残る。

【自由意見】

- ◆なぜ「きぬむすめ」の需要があるのかを分析していない。
- ◆海藻は、他の分野でも効果が認められている
- ◆藻塩を活用した主食用米が、複数ブランド化している。意識の共有が図れば、今以上の特産品となると思われる
- ◆コシヒカリからきぬむすめに移行しているのは、収穫量からか、品質からか、味の好みの変化からか、気になった。
- ◆特色ある米作りという藻塩米であるが、良食味になる科学的な根拠はあるのだろうか。
- ◆また会場から質問があった塩分について、稲に影響のない程度の塩分濃度の水溶液を撒いているという回答であった。消費者は海藻のミネラルの栄養は好ましくても、塩分が気になるので、何か表示に工夫がいるように思う。
- ◆継続、拡充を大いに期待したい。
- ◆限られた作付面積の中で品種転換よりも藻塩米そのものの面積拡大を目標にすることもあるのでは。

- ◆「コシヒカリ」がまだ銘柄では定着していない、「きぬむすめ」がそれに負けないブランド米になり、収量もアップできるよう、これからも指導してもらいたい
- ◆現場での連携体制に関して説明不足。
- ◆生産者が自分事として取り組んでいけるような機運醸成がなされるとより推進力が上がると感じた。

【自由意見】

- ◆今後は、隠岐の米だけではなく、島根県全体のレベルを上げていかなければ、島根の米は良くならない。
- ◆栽培面積が拡大しているので、これからが楽しみ

再確認等を行い、地域にあった施用量の確立を早期にお願いしたい
◆コシヒカリから脱却できない理由のふみこんだ分析がもう少し聞いてみたかった。

【自由意見】

- ◆「きぬむすめ」の推進により、作付面積が拡大したのは分かったが、生産者の収益が上がったのか下がったのかが分からない。
- ◆どんな食味か、一度食べてみたい
- ◆他地域・他分野への波及を大いに期待したい。
- ◆離島ならではの小回りが効いた軽いフットワークの活動で早期の効果発現を期待。

- ◆「儲かる農業」の普及活動など今後は期待する
- ◆農業には技術的、組織的な活動は必要ですが、マネージメント的な普及活動があっても面白いと思う。
- ◆収量向上が、より意欲につながる
- ◆藻塩米自体が、複数年の取り組みであることから、隠岐地区全体の農産物の特徴ある生産・販売への取り組みを普及部全体でおお願ひしたい。
- ◆大産地と同レベルの成果を求めめる必要はなく、隠岐らしい活動を意識すること。

【自由意見】

- ◆一部の地域のブランドだけではなく「島根の米」のブランド力が必要。
- ◆米どころになるのが、これからより楽しみ
- ◆若手普及員の発想を尊重する職場(ベテラン普及員)あつての成果と想像
- ◆ブランド化に取り組んで15年経過した現状からすれば、課題の設定に発想の転換が必要か。
- ◆他の事例と違う視点での支援手法であり、普及部の役割とは何か、をもう一度考えるきっかけになった。

する。

○藻塩米は、卸・米屋との連携(情報や意見)に基づき販売を起点とした商品づくりを行ってきた。今後は、島大の研究成果を基に藻塩米の特性を明確にした上で、特性を活かす栽培技術確立に取り組む。

○JAは、生産者と実需者、島大等との連携・調整を担っており、藻塩米生産振興の推進役を担っている。普及は、主に栽培技術の確立を担っている。厳しい販売情勢等の下、振興策や課題について、生産者と関係機関が速やかに情報を共有するとともに、迅速に判断・対応できる体制整備を行う。